

令和 6 年度ひきこもりに係る支援者交流会の概要

【目的】

- 現場の支援者等が効果的な支援事例等の情報共有やグループワークによる意見交換を通じ、適切な支援の推進を図る。
- 区市町村の職員間、サポートネットとの交流を通じ、顔の見える関係づくりを形成する。
- ひきこもり支援体制が未だ構築されていない自治体職員にも参加を促して他自治体の取組を知る機会とし、区市町村全体の取組の充実を図る。

【対象】

- 都内自治体でひきこもりに係る相談支援や居場所運営等を行う現場の支援者
- ※自治体職員のほか、各区市町村から業務委託された法人等（NPO法人や社会福祉協議会等）の職員を含む。

【内容】

- 国や都及び区市町村等からの事業説明とグループワークの2部制とし、自治体の取組や地域資源の情報共有、テーマごとの議論などを実施

【期待される効果】

- 支援機関等の交流による、都、区市町村の現場対応者間での情報交換、リファールの円滑化
- 情報共有や意見交換による支援体制が未構築の自治体も含めたひきこもり支援事業の充実



都内ひきこもり支援の推進、気運醸成及び取組活性化につながり、
区市町村支援全体の底上げを実現

令和6年度ひきこもりに係る支援者交流会の実施状況

- 開催日：令和6年7月
- 場 所：新宿区
- 参加者：計40名
- (内訳) 自治体職員 19名(8区5市)
- 社協職員 12名
- 民間支援団体 3名
- その他関係団体 6名

第1部 事業発表	国及び自治体等から事業説明、各取組や地域資源等を紹介 ●厚生労働省 「ひきこもり支援施策について」 ●中野区社協 「ひきこもり支援を通じた地域づくり」 ●墨田区 「墨田区ひきこもり支援取り組み事例」
第2部 グループワーク	「窓口対応」や「部署間連携」など、様々なテーマを各テーブルで設定し、参加者はテーブルを移動しながら一定時間、少人数で自由に情報・意見交換を実施（ワールドカフェ対話方式）

アンケート結果より

【満足度】

- 約8割が満足
- ①とても満足：15名(38%)、②満足：16名(40%)、③普通：9名(22%)、④不満：0名、⑤とても不満：0名

【意見・感想】（抜粋）

- 自治体の方、現場の方、様々な方々と交流できる機会であり、非常に良かった。来年（次回）も楽しみにしています。
- 自治体の職員の方々と、同じ立場として共有ができるといいなと思いました。（思ったより委託事業者さんが多いと感じた）
- 民間支援団体の参加が増えてほしい。
- 単年度に複数回あると良いのでは。
- 最低年1回の開催をお願いします。
- ワールドカフェでは、他の方の様々な事が聞け、今後の支援や窓口業務にとっても参考になりました。
- ワールドカフェの時間をもう少しとって頂けると、ゆっくり議論も深められるかと思いました。
- ワールドカフェは時間が足りずあわただしかったが、とても刺激的でした。
- ワールドカフェは、全部まわるのではなく半分くらいにして、もっと意見交換したかった。